
第12回 通常総会 議案書

日 時 2019年2月23日（土）15時30分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長挨拶
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
 - 第1号議案 2018年事業活動報告
 - 第2号議案 2018年活動決算報告、監査報告
 - 第3号議案 2019年事業活動計画
 - 第4号議案 2019年活動予算
 - 第5号議案 役員改選
5. 議長退任
6. 閉 会

設立から11周年を迎えた2018年は、空知産炭地域と小樽市・室蘭市を結ぶ《炭鉄港》が日本遺産登録に向けて大きく前進したほか、夕張市石炭博物館（以下《夕張CM》）の指定管理、赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設（以下《赤平GC》）の業務受託によって、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター（以下《岩見沢MC》）を核とする面的な展開体制が具体化しました。以下、各事業ごとに、2018年の活動についてご報告します。

[活動計画に対して：○=達成 △=途上 ×=未了]

■出版事業

△ブックレット・解説資料の刊行：ブックレットについては、《夕張CM》《赤平GC》関係の業務が輻輳し具体的な成果を得ることができませんでした。

一方、《炭鉄港》や《夕張CM》関係の印刷物資料は、事業進展に付随して数多く作成しました。

■炭鉱遺産事業

○赤平立坑など主要炭鉱遺産の保全活用に対する積極的な関与：活用計画の策定に関わってきた赤平市の住友赤平立坑では、幾多の曲折を経て2018年7月に「赤平市炭鉱遺産ガイダンス施設」が開業し、当NPOではカフェ物販コーナー運営とガイド補助を赤平市から受託しました。これにより、後述する《夕張CM》と合わせて、岩見沢・赤平・夕張の3拠点によって空知産炭地域全域を面的にカバーする体制が一応確立しました。

《赤平GC》の開設効果を発揮させるため、赤平立坑周辺で意識的に催事を集約して展開しました。

「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」シリーズとしての「赤平アートプロジェクト」を、9月8日～10月8日の会期で延べ13日間開催し、820名の観覧者がありました。また、11月4日には「食のTANt anまつり」を開催し、管内各地の飲食店出店、管内首長らによるリレートーク「ドイツ-九-炭鉄港」、立坑周辺の炭鉱遺産めぐりなどに、延べ約2,000名が参加しました。

三笠市の住友奔別立坑は、ここ数年の取り組みにもかかわらず保存活用にに向けた気運醸成が進展しないことから、5月大型連休と夏休み期間中に延べ15日間の敷地公開を引き続き行い、延べ1,248名の来訪がありました。

当NPOの面的展開体制を象徴する行事として、従来は三笠市だけで開催していた「線路の灯り」をスケールアップした「炭鉱の灯り」として、唐松駅（三笠市／7月29日）、石炭大露頭（夕張市／8月5日）、住友赤平立坑（赤平市／8月12日）の3個所でリレー開催しました。

炭鉱遺産のある空間を歩いて巡り学ぶ「ぶらぶらまち歩き」は、10月に8本を集中的に開催し、昨年に比べ開催本数は半減したにもかかわらず242名の参加がありました（昨年は15本・285名）。

○小樽・室蘭との連携による「炭鉄港」の日本遺産に向けた運動の強化：2010年から展開してきた「炭鉄港」は、日本遺産への登録に向けた活動の流れが一段と活発化しました。7月に自治体・商工会議所商工会・観光協会・各地団体など約80団体が加盟する炭鉄港推進協議会が発足し、各地での広報映像の放映、JR車内誌などメディアへの露出度向上、フォーラム開催など、取り組みの幅が広がりました。2019年1月の日本遺産申請に向けての申請書作成や要請行動において、ストーリー構築など根本的な部分で当NPOは重要な役割を果たしました。

■学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流強化：2018年も(株)島津興業からの受託調査が継続されたことよって、空知総合振興局主催の炭鉄港関連催事など鹿児島と北海道との歴史的経緯を踏まえた活動を展開することができました。

△基礎的な資料の整備・公開体制の構築：統計・図面・基本図書など空知産炭地域での石炭産業の展開過程を詳しく説明する基礎的な資料について、その整理と公開を進めようとしたのですが、他業務が繁多であったことから準備作業にとどまりました。2019年の具体化に向けて、準備を進めているところです。

特に石炭博物館の収蔵史料の整理については、指定管理業務に含まれておらず本来は設置者である夕張市教委が行うべき筋合いのものです。これまでの経緯や改修事業の過程で散乱した資料を放置することは「炭鉱の記憶」を活動ドメインとする当法人として看過できないことから、可能な限り整理を促進すべく作業に着手したところです。

■市民団体連携事業

- 管内の機関・団体との連携：《炭鉄港》など活動の様々な局面を通じて、地域内外の機関・団体と良好な関係を築く取り組みは、マネジメントセンターの一連の活動の中で展開しました。また、前述した「食のTANtanまつり」は、各地の市民団体との連携を強める意味で効果的な催事となりました。
- 国内外の関係者・団体へのアピールと受入対応：マネジメントセンターには各地各所から多様な求めが寄せられ、積極的に対応しました。

■拠点施設事業

- そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの安定的運営：限られた経営資源のなかで《岩見沢MC》の開館を継続し、地域のワンストップ拠点としての機能を発揮することができました。2018年1～12月の入館者数は4,763名（2016年5,134名、2017年4,436名）で、ほぼ安定的に推移しています。

■ヘリテージツーリズム事業

- 研修旅行など受け入れ対応：他社ツアーのガイド受託や各種視察の手配業務は、例年並みに推移しました。2018年の特徴的な活動としては、9月に東京で開催された「ツーリズムEXPOジャパン2018」への出展が挙げられます。国内外から1,300団体・企業が出展し20万人の来場者がある日本最大の旅行・観光展示会で、島津興業・夕張市との連携出展により一等地の角地ブースを確保できたことから、《炭鉄港》や炭鉱遺産を広くアピールすることができました。

■石炭博物館事業

- △指定管理受託と円滑な運営体制の早期確立：夕張市石炭博物館の指定管理協定（2019年4月から5年間）を夕張市教委と締結し、当NPOによる博物館の指定管理がスタートしました。入館者数はリニューアル効果によって当初想定14,000名を大きく上回る31,786名であったこと、来館者・従業員に事故なく1シーズンめの営業を終えることができたことは、まさに天佑によると言えます。初動期の備品など設備充足にあたっては、会員の皆さまから約100万円にもものぼる寄付金を頂いたことで大きな助力となりましたことを、改めてお礼申し上げます。博物館改修作業（特に展示部門）の遅れが、4月からの指定管理業務の体制構築へ影響し、十分な準備を行えないまま4月28日の開館に突入せざるを得なかったのは痛恨の極みでした。この余波は、その後も活動の質的充実を図ることの妨げとなりました。次シーズンの営業に向けて、運営体制の整備と質的充実に向けた取り組み強化は急務であると言えます。

■会務

- △会員サービスの充実：2月には会員交流会を開催しましたが、なお一層のサービス向上を目指す必要があります。
- ×新たな事務局運営体制の整備：《岩見沢MC》《赤平GC》《夕張CM》の3拠点体制下で、法人の安定・発展に向けて、専従役員体制など新たな体制構築が不可欠な状況にあります。《夕張CM》の安定運営に時間を要していることから、次年への課題となりました。
- 会員数：[2018年12月末] 総数=337名（昨年末322名）、運営会員=52名（同48名）、一般会員=263名（同253名）、賛助会員=22社団体（同21社）、[動静] 入会=35名（同33名）、退会=20名（同33名）、種別変更=3名（同0名）

第2号議案 2018年度活動決算報告、監査報告

2018年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2018年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	8,340	
普通預金 北洋銀行	4,317,067	
普通預金 北洋銀行 [石博]	5,073,404	
普通預金 空知信用金庫	0	
普通預金 北海道労働金庫	6,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	16,382	
郵便振替口座	60,239	
現金・預金小計	9,481,781	
売掛金	104,000	
棚卸資産 [販売用書籍]	137,648	
前払費用 [家賃]	150,000	
立替金 [2017・2018除雪]	43,200	
流動資産合計		9,916,629
2 固定資産		
工具器具備品	1,211,325	
減価償却累計額	△ 554,684	
有形固定資産小計	656,641	
敷 金	50,000	
投資その他の資産小計	50,000	
固定資産合計		706,641
資産合計		10,623,270
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,725,177	
前受金 [㈱島津興業]	1,350,000	
預り金 [所得税・社会保険料]	951,653	
流動負債合計		4,026,830
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		4,026,830
正味財産		6,596,440

2018年 その他事業会計 財産目録

2018年12月31日現在

該当事項なし

2018年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2018年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現 金	8,340	
普通預金 北洋銀行	4,317,067	
普通預金 北洋銀行 [石博]	5,073,404	
普通預金 空知信用金庫	0	
普通預金 北海道労働金庫	6,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	16,382	
郵便振替口座	60,239	
現金・預金小計	9,481,781	
売掛金	104,000	
棚卸資産 [販売用書籍]	137,648	
前払費用 [家賃]	150,000	
立替金 [2017・2018除雪]	43,200	
流動資産合計		9,916,629
2 固定資産		
工具器具備品	1,211,325	
減価償却累計額	△ 554,684	
有形固定資産小計	656,641	
敷 金	50,000	
投資その他の資産小計	50,000	
固定資産合計		706,641
資産合計		10,623,270
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,725,177	
前受金 [榑島津興業]	1,350,000	
預り金 [所得税・社会保険料]	951,653	
流動負債合計		4,026,830
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		4,026,830
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産		2,912,614
2 当期正味財産増加額		3,683,826
正味財産合計		6,596,440
負債および正味財産		10,623,270

2018年 その他事業会計 貸借対照表

2018年12月31日現在

該当事項なし

2018年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

2018年1月1日～2018年12月31日

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費		1,953,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		1,205,723
3. 事業収益		
商品・書籍・飲食販売	2,184,996	
ガイドツアー	276,619	
受託業務	9,295,796	
指定管理	6,000,000	
入館料	29,529,670	
その他	681,282	47,968,363
4. 助成金		0
5. 補助金		
道空知総合振興局		1,600,000
6. その他収益		
受取利息	62	
雑収益	0	62
経常収益合計		<u>52,727,148</u>
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	12,433,680	
法定福利費	895,859	
人件費計	<u>13,329,539</u>	
(2)その他経費		
売上原価	1,465,403	
謝金	9,662,585	
通信費	703,748	
光熱用水費	7,530,330	
旅費交通費	2,545,393	
旅費日当	552,500	
広告宣伝費	170,000	
交際費	51,734	
会議費	314,710	
消耗品費	5,084,322	
図書費	223,101	
印刷費	1,594,175	
修繕費	339,120	
地代家賃	600,000	
保険料	65,934	
委託料	974,411	
租税公課	12,030	
諸会費	123,200	
賃借料	2,093,812	
支払手数料	77,878	
雑費	226,188	
減価償却費	331,560	

	その他経費計	34,742,134		
	事業費合計		48,071,673	
2. 管理費				
(1)人件費				
給料手当		325,000		
役員報酬		450,000		
	人件費計	775,000		
(2)その他経費				
旅費交通費		72,550		
会議費		1,643		
消耗品費		21,556		
租税公課		3,500		
	その他経費計	99,249		
	管理費合計		874,249	
経常費用合計				48,945,922
	当期正味財産増加額			3,781,226
	法人税・住民税・事業税		97,400	97,400
	前期繰越正味財産額			2,912,614
	当期正味財産合計			6,596,440

2018年その他事業会計 活動計算書

2018年1月1日～2018年12月31日

該当事項なし

監査報告書

2019年01月14日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 吉岡宏高 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 熊谷隆文 ㊟

監事 加藤愉朗 ㊟

2018年01月01日から2018年12月31日までの2018年（第12期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以 上

■出版事業

- ブックレットの発刊（石炭博物館ガイドブック／炭鉱鉄道／炭鉄港／日立）
- 解説資料の刊行

■炭鉱遺産事業

- 《炭鉄港》日本遺産との連動による炭鉱遺産のクローズアップ
- 《炭鉄港》日本遺産との連動による小樽・室蘭との広域連携の強化

■学術支援事業

- 歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続
- 《夕張CM》をはじめとした学術機能支援の充実

■市民団体連携事業

- シーニックバイウェイ展開などを通じた他管内の機関・団体との連携
- 国内外の関係者・団体への対応

■拠点施設事業

- そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの安定的運営
- 《岩見沢MC》開設10周年記念事業の開催

■ヘリテージツーリズム事業

- 《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進

■石炭博物館事業

- 運営体制確立によるサービス業としての基礎要件の充足
- 指定管理業務の着実な実施と博物館の質的充実に向けた展開

■会務

- 会員サービスの充実
- 新たな運営体制の検討

第4号議案 2019年度活動予算

2019年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書

2019年1月1日～2019年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,300,000	運営500、一般800、賛助1,000
2. 受取寄付金	2,300,000	大口2,000、小口300
3. 事業収益	38,000,000	受託調査7,000、MC1,500、GC2,000、CM27,500
4. 助成金	0	
5. 補助金	2,300,000	道地域づくり総合助成金2,300
6. 受取利息	500	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	44,900,500	
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費	14,000,000	MC3,500、GC1,500、CM9,000
経費 出版事業	800,000	MC書籍売上原価200、出版原価600
遺産保全活用事業	600,000	
学術支援事業	4,500,000	受託調査売上原価4,000、その他500
市民団体連携事業	700,000	MC飲食物販原価400、市民活動支援300
拠点施設運営事業	2,000,000	光熱用水費など経常経費
ハテナジ ツーリズム事業	1,000,000	炭鉄港日本遺産500、GC売上原価500
石炭博物館事業	20,000,000	
事業費小計	43,600,000	
2. 管理費		
人件費	800	理事長500、事務局長手当300
その他経費	1,300,000	会議100、租税公課1,200
管理費小計	1,300,800	
経常費用合計	44,900,800	
法人税・住民税・事業税	1,300,000	
当期正味財産増加額	△ 1,300,300	
前期繰越正味財産額	6,596,440	
当期正味財産合計	5,296,140	

2019年その他事業会計 収支予算書

2019年1月1日～2019年12月31日

該当事項なし

第5号議案**役員改選**（任期：2019年02月23日～2021年2月開催の定期総会終了時）

■候補者

【理事】

吉岡宏高（重任）

・現理事長、札幌国際大学観光学部教授、札幌市在住・三笠市出身

大橋二郎（重任）

・現副理事長、(有)大橋設備工業、芦別市議会議員、芦別市在住

植村真美（重任）

・現副理事長、植村建設(株)、元赤平市議会議員、赤平市在住

酒井裕司（重任）

・現常務理事、イメージランドスケーププランニング代表、札幌市在住

佐藤裕子（重任）

・現理事、西野回陽堂、夕張市在住

平野義文（重任）

・現理事、(株)ハイテコス、岩見沢市議会議員、岩見沢市在住

石川成昭（重任）

・現理事、日本データサービス(株)、土木学会道支部土木遺産選考委員、札幌市在住

仲嶋憲一（新任）

・(一社)室蘭観光協会事務局長、登別市在住

【監事】

加藤愉朗（重任）

・現監事、植村建設(株)、赤平市在住

熊谷隆文（重任）

・現監事、中国足心道夕張治療院「博仁館」、学芸員・元石炭博物館館長、夕張市在住